



アジア太平洋地域の リーダーかつ奉仕者として

企画室長 古井貞熙

2006年12月にハワイで、私が関係している分野の、日本と米国の学会の合同国際会議を開催した。これは、ほぼ10年に1回定期的に開かれ、1,500件以上の論文発表がある大きな会議で、両国の学会から選ばれた委員の協力で運営されるが、10年前の前回と比べて今回大きく異なったのは、日本側の委員の英語力や運営力が大幅に向上し、前はどちらかというと米国主導で行われたが、今回は全く対等に、ある部分では日本側がリーダーシップを発揮して行われたことである。これは、日本の研究者の「国際化」が着実に進んでいることを示している。

電子情報通信の分野の学会では、IEEEが圧倒的な力を持っており、国際学会とはいえ、主として米国の研究者がリーダーシップを握っている。日本の研究者にも、IEEEの運営に大きな力を発揮している方がおられるが、IEEE全体の中ではわずかである。欧州に目を転ずると、我々の信号処理分野では、EURASIPという欧州連合があり、欧州の結束を図っている。最近では、アジアの経済的、技術的發展に支えられて、IEEEでも中国や日本をはじめとするアジアからの論文の発表が急激に伸びているが、アジア地域の結束は弱い。アジアの国々の経済的、技術的レベルは、国による格差が極めて大きく、これらの国の研究者や学生の中には、IEEEの国際会議に参加するのが経済的に困難であったり、論文の書き方の訓練ができていなかったり、あるいは実績がないために論文が採択されるのが難しいというケースも多い。

そこで最近、米国を含むアジア太平洋地域、具体的には、米国、カナダ、中国、韓国、日本、台湾、香港、タイ、シンガポール、オーストラリア、ニュージーランド、インドなどの代表者が東京に集まり、アジア太平洋地域信号情報処理連合(Asian-Pacific Association for Signal and Information Processing, APASIP, 仮称)を結成し、アジア太平洋地域の研究・教育活動の活性化を図ることが決まった。この東京での準備会議には、電子情報通信学会の情報・システムソサイエティの活性化基金のサポートを頂き、私が運営委員長を務めることとなった。既存の地域学会や会議と連携し、国際会議の開催、情報交換などを中心に活動を進める。運営委員会の主要メンバーは、IEEEのSP SocietyのVice Presidentなど、IEEEで活発に活動している人たちであり、IEEEとの連携を大切にしながら活動を進める。この地域の活動に最も多くかかわっているのは、中国系の研究者で、この地域の学会に参加すると、中国語に包囲されているような錯覚さえ覚えるが、その活動の中で、日本の研究者、特に電子情報通信学会のリーダーシップが強く求められている。

日本人は、日本あるいは日本人自身を、外国あるいは外国人と非常に異なる特別なものと考えすぎる傾向がある。Nationalityはあって当然であるが、人間はそもそも多面的なものであり、個性を尊重することが大切である。こう考えれば、他人に対しても外国人に対しても、劣等感と優越感のいずれか一方から一方へ単純に振り子のように移り、ちょっとしたことでおごりと自信過剰に陥ることはなくなるであろう。我々は、古くは中国やインド、最近では欧米などから、いろいろなことを教わってきた。これから日本の研究者は、欧米の研究者と連携かつ切磋琢磨しながら、アジア太平洋地域でのリーダーかつ奉仕者としての役割を果たすことによって、地球規模での学問の発展に寄与することが重要と思う。